Magazine for Takashimaya's Special Card Members

Takashimaya Salon

May 2020
Vol. 158
5

眺める、登る、泊まる── 城を体験する旅。

CASTLE STAY

城に、泊まる。

text:Yoko Kiyosu

眺めるだけではなく、宿泊できる城があるのをご存じだろうか？当時の城主に思いを馳せながら、「城泊（キャッスルステイ）」と旅を楽しみたい。

愛媛・大洲城

Ozu Castle

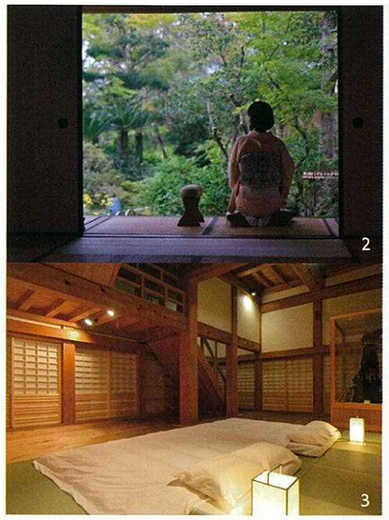
大洲のシンボル的存在。老朽化で廃城となった天守が大洲市民の保護活動と寄付によって、当時の姿に復元された。 写真提供／街づくり写真家河野達郎・アフロ

泊まるだけでなく大洲城の歴史も体験する

ドイツやスペインなどヨーロッパには、古城を改装したホテルに宿泊するツアーが数多く存在する。城の数や規模の違いはあるが、日本では見かけることがなかった。それがこの春、日本の城に宿泊する「城泊（キャッスルステイ）」がスタートした。当時の城主の気分で泊まってみたい。

鎌倉時代末期、1331年に伊予守護の宇都宮豊房が築いた地蔵ヶ嶽城が始まりといわれる大洲城。豊臣秀吉の四国平定後は次々と城主が替わり、その間に近代城郭へと整備された。1617年加藤貞泰が城主となった頃には城郭のほとんどが整備されていたという。

1.夕食は城下の旬の食材を使ったフルコースを地酒と共に。2.大洲城のそば、肱川流域随一の景勝地、臥龍淵にある別邸、臥龍山荘。美しい景色を貸し切りで眺める時間はまさに殿様気分だ。 3.城主・貞泰が過ごしたといわれる本丸。その1階の畳敷きの部屋で過ごす。二の丸にある浴室からは、ライトアップされた大洲城を眺めることができる。 4.貞泰の号令で鉄砲隊の祝砲が鳴り響く。江戸時代の一場面を思い起こす。



明治に入り、天守が老朽化により解体されてしまったが、江戸時代の古地図や明治時代の古い写真などの資料を基に2004年に木造で現在の姿に復元されている。復元された4層4階の天守に加え、解体を免れた4つの櫓（やぐら）は国の重要文化財に指定されている、見どころの多い城だ。

大洲城での宿泊場所は天守の1階。残っている資料から加藤貞泰が天守を使っていた形跡があるそうで、当時の城主が眺めたのと同じ景色を見ることができる。

大洲城の城泊は、天守に宿泊するだけではない。宿泊者は、加藤貞泰をサポートする影武者として宿泊を許される。着物や甲冑をまとって、貞泰の幟を持った幟隊や鉄砲隊、家老が待つ城に馬で入城することができるのだ。幟隊の歓迎や鉄砲隊の祝砲を聞きながらの入城は、江戸時代にタイムスリップしたような体験だ。

入城後は、家老による城内や大洲の街の案内、重要文化財の高欄（こうらん）櫓（やぐら）での月見、神楽鑑賞、夕食など数々のおもてなしが待っている。

朝食も、国の重要文化財である別邸、臥龍山荘（がりゅうさんそう）で。殿様御膳を前に伊予の小京都といわれる景勝地、臥龍淵をのんびりと眺める優雅な時間を過ごせる。

城を貸し切りにした歴史体験で、当時の城主の思いに近づける。

Information -

■大洲城
お問い合わせ／
VMG 総合窓口 0120-210-289
https://www.ozucastle.com/#castleStay
住所／愛媛県大洲市大洲 903
宿泊料金／1棟貸し切り2名1泊
1,000,000 円（税抜）
※2～5名のみ受け付け、
1名追加 100,000 円（税抜）
内容／「1617 加藤貞泰の入城」体験（着物・甲冑レンタル及び着付け、鉄砲隊、幟隊、引き馬等含む）、伝統芸能（雅楽等）、夕食、月見体験、臥龍山荘の早朝貸切、殿様御膳、松山空港・JR 駅への送迎